

| | |
|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 氏名 | 今泉裕美子（教授） |
| こんな研究をしています | <ul style="list-style-type: none"> ・国際関係学（International Studies）の方法論…日本における国際関係研究の歴史を植民政策研究を軸に跡づけ、国際関係研究の現状を、現在に至る国際関係の展開と行為体の多様化、キー概念としての「関係性」、「総合のなかの専門性の追究」などから研究。 ・ミクロネシアと日本（個別の地域を含む）との関係史と地域の現状を、アジア及び太平洋島嶼をめぐる国際関係の中で追究。具体的には、①戦前日本の南洋群島統治政策とそこに暮らす人々、③南洋群島への移民、戦時動員、引揚げと、引揚げ後の地域社会史との関係、④太平洋戦争と米軍占領、⑤米国による戦略的信託統治、⑥ミクロネシアの戦災からの「復興」、軍事基地化と脱植民地化との関係、⑦南洋群島帰還者の諸活動・ミクロネシアとの「交流」、⑧旧南洋群島を生きた人びとの植民地・戦争経験とその継承、⑨戦後日本の太平洋島嶼政策。 |
| こんな成果を挙げています | <ul style="list-style-type: none"> ・「グローバル化と私たち 12.移民 日本からの移民」歴史学研究会編『「歴史総合」をつむぐ一歴史家と考える歴史の学び方』東京大学出版会、2021年1月刊行予定。 ・「近年の「引揚げ」研究の視点と本書の課題」、「パラオ諸島をめぐる民間人の「引揚げ」」今泉裕美子他編『日本帝国崩壊期「引揚げ」の比較研究—国際関係と地域の視点から』日本経済評論社、2016年。 ・「太平洋の「地域」形成と日本—日本の南洋群島統治から考える」李成市他編『岩波講座日本歴史第20巻（地域論）』岩波書店、2014年。 ・「南洋群島研究」鴨下重彦他編『矢内原忠雄』東京大学出版会、2011年。 ・「第五部 第二章 移民社会 第一節南洋」（財）沖縄県文化振興会史料編集室編『沖縄県史（各論編第5巻近代）』沖縄県教育委員会、2011年。 |
| ほかに、こんなジャンルに関心をもっています | <ul style="list-style-type: none"> ・旧南洋群島経験を次世代に継承すること、あるいはその意義を、ミクロネシアの研究者、教員などと共同プロジェクトで取り組む（代表）。『沖縄県史』、『具志川市史』の執筆、市史スタッフとの調査を通じて、地域社会・市民にとっての「歴史」、「国際関係」とは何かの追究。 ・歌謡、音楽、演劇、絵画、写真、映画、モノ、その他表現にみる「南洋群島」。 |
| こんな授業を行っています | 日本の植民地政策とその下で形成された植民地社会、そこに生きた人々の暮らし、仕事、運動、移動など、また彼らにとってのアジア・太平洋戦争と戦後、脱植民地化の過程を、国際関係学、歴史研究を軸に行う。聞き取り、史・資料調査の方法。 |
| 学会や社会でこんな活動をしています | <ul style="list-style-type: none"> ・米国議会図書館南洋庁関係史料の整理・目録作成マイクロフィルム化協力。琉球大学図書館「矢内原忠雄文庫」南洋群島関係史料の整理・目録作成、「矢内原忠雄文庫南洋群島関係資料展」 (http://manwe.lib.u-ryukyuu.ac.jp/yanaihara/about.html) ・沖縄大学地域研究所「ミクロネシアと沖縄研究会」（2009年度）、「土曜教養講座 ミクロネシア基礎講座」（全2回）第1回担当（2010年11月6日）。 ・ギャラリートーク「赤松俊子の旅した『南洋群島』」原爆の丸木美術館・企画展「赤松俊子と南洋群島」（2015年3月28日）。 ・沖縄県立博物館・美術館「美術家たちの「南洋群島」展」（2008年11月7日 - 2009年1月18日）の展示検討委員。 |
| 私が思う多文化的かつ、インターカルチュラルな人物 | 北原きよ子さん。1946年樺太アイヌの両親が第二次世界大戦後に引揚げた余市生まれ、元関東ウタリ会会長。著作に『わが心のカツラの木—滅びゆくアイヌといわれて』（岩波書店、2013年）。幼い頃から抱いた違和感、疑問、怒り、悲しみ一つひとつを出発点に、自ら情報を集め、様々な人と話し、学び、問題の特徴を見極め、異なる文化、階層、アイヌ問題に無自覚、無知の人々に向き合い、アイヌが伝統的な方法とする話し合いを通じて取り組む。中曽根元首相の「日本は単一民族国家」発言に声をあげるなど権利回復、親から伝えられなかったアイヌの伝統文化の復元を行う。彼女の取り組みから、未解決の多くの事項をもつアイヌ問題が「科学技術の高度化、社会・経済・文化のグローバル化などにより、社会が多様に発展し、国際的競争も激しくなる中で、これまでの知識・技術や発想、思考の枠組みだけでは認識できない問題や解決不可能な問題」（文科省「大学院における高度専門職業人養成について」）なのか、これを解決できるのが高度専門職業人とすれば、彼女がまさしくそのおひとりだ、と思わざるをえない。 |